

製品安全データシート

1.化学物質等及び会社情報

| | |
|-------|----------------------------|
| 製品名 | カーエアコン スーパーJET MAX 200ml |
| 製品コード | 158-8873 |
| 会社名 | 日進化学株式会社 |
| 住所 | 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-29 |
| 電話番号 | 06-6265-0071 |
| 緊急連絡先 | 06-6265-0709 |
| 用途 | カーエアコン用消臭剤 |

2.危険有害性の要約

| | | |
|-----------|-----------------|-----------|
| GHS分類 | | |
| 物理化学的危険性 | エアゾール | : 区分1 |
| | 引火性液体 | : 区分3 |
| 健康に対する有害性 | 生殖毒性 | : 区分1A |
| | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | : 区分2(肝臓) |
| 環境に対する有害性 | なし | |

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

極めて可燃性の高いエアゾール H222
 引火性液体及び蒸気 H226
 高压容器:熱すると破裂のおそれ H229
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ H360
 長期にわたる、又は反復暴露による臓器(肝臓)の障害のおそれ H373

注意書き

使用前に取扱説明書入手すること。P201
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。P202
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。P210
 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。P211
 容器を密閉しておくこと。P233
 容器を接地しアースをとること。P240
 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。P241
 火花を発生させない工具を使用すること。P242
 静電気放電に対する措置を講ずること。P243
 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。P251
 スプレーを吸入しないこと。P260
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。P280
 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。P314
 暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診察/手当てを受けること。P308+P313
 施錠して保管すること。P405
 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。P403+P235
 日光から遮断し、50°C以上の温度に暴露しないこと。P410+P412
 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄すること。P501

3.組成、成分情報

単一製品混合物の区別

混合物

| 化学名 | 含有量(wt%) | 官報公示整理番号 | CAS.No. |
|---------|----------|----------|-----------|
| 水 | 80以上 | — | 7732-18-5 |
| エタノール | 4.7 | (2)-202 | 64-17-5 |
| ノルマルブタン | 3.3 | (2)-4 | 106-97-8 |
| イソブタン | 1.3 | (2)-4 | 75-28-5 |
| プロパン | 1.2 | (2)-3 | 74-98-6 |

その他の成分は企業秘

4. 応急処置

| | |
|-----------|--|
| 目に入った場合 | 流水で十分に洗眼し、異常があれば医師の診察を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | 皮膚に付着した部分に異常があれば医師の診察を受ける。 |
| 吸入した場合 | 新鮮な空気のある場所に移して安静にさせ、不快感や呼吸困難などの障害が起こった場合は、速やかに医師の診察を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | 無理に吐き出させない。異常があれば医師の診察を受ける。 |

5. 火災時の措置

| | |
|------|---|
| 消火方法 | 粉末、炭酸ガス等の消火剤を火元に放射、散布するなどして消火する。 泡消火剤等を用いて空気を遮断する方法も有効である。 エアゾール製品であり爆発する恐れがあるため、消火活動は十分に距離をとり、風上から行う。 高温にさらされている製品は水をかけて冷却する。ただし、製品に水をかけたまま放置するとサビで破裂する恐れがあるので冷却後早急に取り除くこと。 周辺の火災の場合は、速やかに製品を安全な場所に移動すること。 |
| 消火剤 | 粉末、炭酸ガス、泡 |

6. 漏出時の措置

| | |
|---|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | エアゾール製品であり、飛散により人体や目にかからないように注意すること。 屋内であれば換気を良くする。 作業の際には手袋、防護マスク、ゴーグル等を着用し、ガス等を吸入しないよう注意すること。 |
| 環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法・機材 二次災害の防止 | 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意すること。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取り扱うときに用いる全ての設備は接地する。 全ての発火源を速やかに取り除く。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|-----|---|
| 取扱い | 炎や火気の近くで使用しないこと 火の中に入れていないこと 使い切って捨てること その他製品に明記の用途、注意事項を守ること |
| 保管 | 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たるところや火気等の近くなど温度が40℃以上となる場所に置かないこと 水周りや湿気の多い場所に置かないこと 子供の手の届く場所に置かないこと |

8. 暴露防止及び保護措置

| | |
|-------------------|--|
| 管理濃度 | 設定されていない |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会 ACGIH | n-ブタン: 500ppm プロパン: 1000ppm (TLV-TWA) n-ブタン: 800ppm (TLV-TWA) エタノール: 1000ppm (TLV-STEL) |
| 設備対策 | 特になし(屋内で大量に使用することは避けること) |
| 保護具 | 必要に応じて呼吸用保護具 |
| 保護眼鏡 | 必要に応じてゴーグル |
| 保護手袋 | 必要に応じてゴム手袋 |
| 保護衣 | 必要に応じて静電気防止機能付き |

9.物理的及び化学的性質

| | |
|--------------------|-------------------------------------|
| 外観 | 白黄色半透明液体(原液) |
| 臭い | 香料臭 |
| pH | 6.1 |
| 融点、凝固点 | データなし |
| 沸点、初留点と沸点範囲 | データなし |
| 引火点 | 23°C~60°C |
| 爆発範囲 | 下限1.8%(噴射剤:ブタン) 上限9.5%(噴射剤:プロパン) |
| 蒸気圧 | 0.43MPa(25°C) |
| 蒸気密度(空気=1) | データなし |
| 比重 | 0.996(原液) |
| 溶解度 | データなし |
| N-オクタノール /水分配係数 | データなし |
| 自然発火温度 | データなし |
| 分解温度 | データなし |

10.安定性及び反応性

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 安定性 | データなし |
| 反応性 | 酸化性:なし |
| 避けるべき条件 | 高温への暴露 |
| 混触危険物質 | 容器が腐食するおそれがあるので、酸及びアルカリとの接触を避けること |

11.有害性情報

| | |
|----------------------|--|
| 急性毒性 | 経口:区分外 経皮:区分外 吸入(ガス):分類できない 吸入(蒸気):区分外 吸入(粉塵、ミスト):分類できない |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 分類できない |
| 眼に対する重篤な損傷 性/眼刺激性 | 区分外 |
| 呼吸器感作性 | 分類できない |
| 皮膚感作性 | 分類できない |
| 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| 発がん性 | 分類できない |
| 生殖毒性 | 区分1A |
| 特定標的臓器(単回暴露) | 区分外 |
| 特定標的臓器(反復暴露) | 区分2(肝臓) |
| 誤えん有害性 | 分類できない |

12.環境影響情報

| | |
|---------|--------|
| 水生環境有害性 | |
| 短期(急性) | 分類できない |
| 長期(慢性) | 分類できない |
| 残留性・分解性 | データなし |
| 生態蓄積性 | データなし |
| 土壌中の移動性 | データなし |

13.廃棄上の注意

| | |
|--------|--|
| 残余廃棄物 | 少量の場合:火気のない屋外でボタンを押し、噴射音が消えるまでガスを抜いてから捨てること |
| 容器及び包装 | 大量の場合:許可を受けた廃棄物処理業者と契約を結び、廃棄処理を行う 地方自治体の定めるルールに従い、分別して廃棄を行う |

14.輸送上の注意

| | |
|-------------|---|
| 国連番号 | 1950 |
| クラス | 2.1 |
| 国際規制 | 海上規制情報:IMO規定に従う 航空規制情報:ICAO/IATAの規定に従う |
| 国内規制 | 陸上規制情報:消防法、高圧ガス保安法に従う 海上規制情報:船舶安全法に従う 航空規制情報:航空法に従う |
| 緊急時応急措置指針番号 | 126 |

15.適用法令

| | |
|---------|---|
| 高圧ガス保安法 | エアゾール |
| 消防法 | 非危険物 (LPGとしての保管量が300Kgを超える場合届出が必要) |
| 労働安全衛生法 | 名称等を通知すべき危険物及び有害物(エタノール、ノルマルブタン、イソブタン) 名称等を表示すべき危険物及び有害物(エタノール、ノルマルブタン、イソブタン) 危険物・引火性の物 |
| 船舶安全法 | 危険物(高圧ガス) |
| 航空法 | 高圧ガス |

16.その他の情報

| | |
|------|---|
| 引用文献 | 各種原料SDS JIS Z 7253:2019 政府向けGHS分類ガイダンス(平成25年度改訂版(ver.1.1)) http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/int/files/ghs/h25ver1.1jgov.pdf |
|------|---|

本データシートは当該製品の一般的な取扱いに際しての安全な取扱い方法について最新の情報を集めたものですが万全ではありません。新たな情報を入手した場合は追加又は訂正することがあります。当該製品を他の製品と混合したり、特殊な条件で使用したりするときは安全性の評価を行ってください。本データシートは保障値ではありません。